

インバウンドの増加をきっかけに 白馬の活性化が急激に進む

昇龍道の中部エリアで展開される「観光地域づくり」を紹介する特集。
今回は長野県北部の北アルプス山麓に位置する白馬エリア。
外国人でスキー場が賑わうようになった背景や、オールシーズンの
マウンテンリゾート形成に向けた取り組みを紹介する。



白馬村の宿泊事業者による外国人の誘致活動がはじまる

オーストラリア人を白馬村へ呼び込もう

近年、わが国のスキー・スノーボード業界は急激な需要減に喘いでいる。国内有数のスキー場を有する長野県においても、延べ利用者数は1992年の2,119万人をピークに昨シーズン※1は657万人と減少率は69%。一方、スキー場数はピークの1992年・1996年の110カ所から昨シーズンは83カ所※2で減少率は25%と、需給バランスが大きく崩れている。これにより、スキー場間で少ないお客を奪い合う厳しい状況になっているが、白馬エリアでは外国人を積極的に呼び込む戦略により、明るい兆しが見えている。

2004年、白馬村の宿泊事業者に国土交通省から訪日旅行促進事業「ビジット・ジャパン・キャンペーン」への参画が打診されたことから始まった。1998年開催の長野冬季オリンピック以降、韓国人とオーストラリア人を中心にチラホラと外国人が増えていたこともあり、この機を逃してはいけないと集まった宿泊事業者10軒が誘致活動団体「白馬ツーリズム」を結成した。

2006年にはビジット・ジャパン地方連携事業の一環

として、白馬村、野沢温泉、志賀高原、妙高高原で「長野ー新潟スノーリゾートアライアンス実行委員会」を結成。白馬ツーリズムもその構成団体として、シドニーとメルボルンで開催されるオーストラリア最大級のスノーエキスポに出展をはじめた。さらに、現地の旅行代理店にも積極的な営業活動を行い、「後立山連峰の雄大な景観」「日本文化が残る田舎やそこに暮らす人々の素晴らしさ」などを売りに、現地の人たちの興味を惹きつけていった。



地元の人で結成された団体なので、余すところなく白馬の魅力を伝えられるのが強み

※1: 2010年からはシーズンで統計調査結果を集計。

※2: 昨シーズンの長野県内には94カ所のスキー場があったが、営業したのは83カ所。

外国人の食習慣の違いに応えるために尽力

オーストラリア人を宿泊施設へ受け入れる際、意外にもさほど苦労はなかったという。現在、白馬ツーリズムの事務局を務める白馬山のホテル支配人の武藤慶太

さんは、「設備面ではWi-Fiを設置したくらいで、言葉も土地柄的にスキーの国際大会出場経験者など英語を喋れる人が多く特に問題はなかった。オーストラリア人はおおらかで明るい気質の人が多く、多少の不備はあまり気にしない。和室や片言の英語しか通じない宿をあえて選び、文化体験だと楽しんでいる人もいる。都会の高級ホテルのように万全な受け入れ体制を整える必要性はなかった」と当時を振り返る。



武藤慶太さん(46)。白馬 山のホテルはジャンプ台の目の前に立地

但し、宿泊客と地域のために泊食分離の対応には力を入れた。まずは白馬村観光局と協力し、冬の間宿泊エリアと飲食エリアを結ぶナイトシャトルバス「元気号」の運行を開始。さらに、「HAKUBA ESSENTIAL GUIDE」という飲食店、温泉施設、レンタルショップ、ツアー紹介、元気号のルートマップや時刻表などを網羅したガイドブックを作成し、毎シーズン最新情報に更新して発行している。

外国人に人気のスキーリゾートへ変貌を遂げる

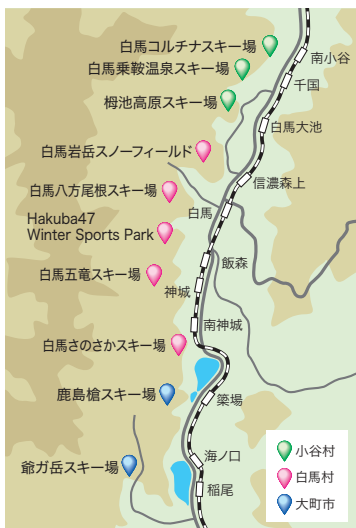
白馬ツーリズムでは、2009年からアライアンスの活動としてロンドンで開催されるヨーロッパ最大級のスノースポーツ見本市への出展を開始。他にも地元のツアー会社や長野県などと連携し、ヨーロッパやアジアからの誘客にも力を入れ出した。

白馬ツーリズムの活動や訪れた外国人の口コミにより、2005年には2万1,216人だった白馬村の外国人の延べ宿泊者数が2017年には11万3,970人※3と5倍以上に増加。オーストラリア人については20倍に増加している。現在、白馬ツーリズムの冬季宿泊者のうち、外国人の割合は平均で70%にも及ぶ。小さな民宿でもブッキングドットコムなどのオンライン予約サイトを活用し、独自に外国人の受け入れをはじめている。さらには、廃業や老朽化した宿を再生し経営する外国人も年々増加。武藤さんによると、白馬村で外国人を受け入れている宿は300軒くらいあるという。

※3：外国人が経営する宿の中には、経営者がシーズン終了前に国へ帰ってしまい調査できないところもあるため、実際の延べ宿泊者数はさらに多いという。

外国人の増加でスキー場を運営する索道事業者も動き出す

日本最大のスキー場「HAKUBA VALLEY」



白馬村と、隣接する小谷村・大町市は白馬エリア(以下、白馬)と称され、14の索道(リフト・ゴンドラなど)事業者によって10のスキー場が運営されている。スキー場が違えばリフト券の仕組みもバラバラだった。スキー場が活況を呈していた頃は、その方がお客の囲い込みができてよかったが、スキー・スノーボード人口が低迷する中、同じエリアのスキー場でお客を奪い合っ

ては、エリア全体が弱体化する危機感があった。

そのような中、索道事業者の意識が変わるきっかけとなったのが外国人の増加だった。外国人は7~10日と滞在期間が長く、複数のスキー場で滑るのを楽しみにやっ

てくる。そこで白馬を一つとし、「HAKUBA VALLEY」の名称で日本最大のスキー場として売り出していくことにした。2015年には索道事業者が一体となって活動を推進していくため、「HAKUBA VALLEY索道事業者プロモーションボード」を設立し、共通のリフト券と自動改札システムを導入。また、各スキー場をつなぐシャトルバスを整備し、スキー場利用者の利便性が向上したこともあり、昨シーズンは33万人を超える外国人が訪れた。前シーズンより10万人以上増加し、総利用者数に対して外国人が21%を占めた。



自動改札システムは外国人が多く来る7カ所のスキー場から導入を開始

ここ数年、白馬には香港、台湾、シンガポールからの利用者也増加している。また、2022年に北京冬季オリンピックを控える中国がウィンタースポーツ人口を3億人にする目標を掲げており、プロモーションボードでは、

潜在力の高いマーケットとして、これからはアジア市場への売り込みを強化していく予定だ。

異色の経歴を持つ社長の挑戦がはじまる

白馬では、冬季と夏休みに観光客が集中し、年間を通じた入り込みの波動が大きい。その状況を解決すべく、**オールシーズンでお客様を呼べるマウンテンリゾートの形成を目指し、一人の男が白馬の地にやってきた**。現在、白馬観光開発の社長を務める和田寛さんだ。

和田さんは、山や自然、田舎が好きという理由から、大学を卒業すると農林水産省に入省。在省中アメリカに留学しMBAを取得すると、ビジネスの世界も見て学びたいと、戦略系コンサルティングファームのベイン・アンド・カンパニーに転職した。冬になると毎週末スキー場に足を運んでいた和田さんは、数あるスキー場の中でも別格というほど白馬に惹かれていた。しかし、せっかくの潜在力を生かしきれていないと感じ、これまでの仕事で得た知見とノウハウで地域の活性化に貢献したいと考えた。そこで2014年、白馬観光開発の親会社に入社し、経営企画室長として白馬観光開発へ出向。2017年に社長に就任した。

白馬観光開発は、白馬のスキー場で索道・飲食・物販を事業とする企業。索道事業は白馬ではもっとも大きく、**白馬八方尾根、白馬岩岳、杓池高原の3スキー場の運営**



和田寛さん(42)。手に持っているのは、和田さんが導入した新業態のスターバックスのドリンク

に携わる。これほど大きな規模を持つスキー場の維持・更新をスムーズに進めていくためには、いかにグリーンシーズンの集客を上げ、稼げる体制を構築していくかが課題だった。

集客力を上げる仕掛けを次から次へと繰り出す

グリーンシーズンの客層は、登山やトレッキングを楽しむ国内のシニア層が多い。和田さんは、もっと幅広い層が楽しめるコンテンツが必要と考え、次々と新しい仕掛けを繰り出していった。

例えば、**既存のMTBパークを2017年にオーストラリアからトレイルビルダーを呼び整備を行った結果**、利用者がオープン当初から20倍以上に増加。昨年8月には、日本初上陸のフランス発アドベンチャー施設を導入し、

若者やファミリー層で人気を博している。同じく10月には、「**三段紅葉**」と呼ばれる**山頂の冠雪、中腹の紅葉、麓の樹木の緑が一度に楽しめる山頂テラスをオープン**。紅葉だけでなく、年間を通じて景観を楽しめる施設だ(次ページご参照)。

和田さんは、「海水浴場とビーチリゾートのイメージが違うように、スキー場をマウンテンリゾートにしていくなめには、**これまでスキーや山に強い興味を持っていなかったお客様にも白馬に目を向けてもらうことが課題**」といい、**冬山を楽しむ仕掛けも次々と展開している**。



星空観察会(上)やコロナビールと組んでオープンしたビアテラス(下)は、ノンスキーヤーにも人気

世界に冠たるマウンテンリゾートを目指して

和田さんは、地域の課題となっている**老朽化した宿や街中の再生にも力を注いでいる**。自社だけでは業務の幅や資金面に限界があるので、**異業種の企業と組んで新会社を設立し、宿のリニューアルや商業施設をつくりはじめている**。「地域全体の魅力が高まれば賑わいは必ず戻る。地元の人が幸せになるために、地域経済にプラスになることは積極的にやっていきたい」と語る和田さん。これらの取り組みが評価され、白馬観光開発は経済産業省による「地域未来牽引企業」に選定された。

白馬ツーリズムの活動、索道事業者の連携により多くの外国人が押し寄せるようになった。そして和田さんを中心とする地域全体の活性化を目指す活動により、スキー場だけでなく街中を含めて通年楽しめるエリアに変貌する日も遠くはないだろう。**和田さんは、カナダのウィスラーやフランスのシャモニーなどと並ぶマウンテンリゾートとして、白馬が世界のトップ10に入ることを目標に掲げている**。「日本のマウンテンリゾートでどこに行きたい?」と聞いたら、「白馬」とすぐに答えが帰ってくるのを目指して。

文:総務部 櫻井 景子

取材協力:白馬 山のホテル

支配人 武藤 慶太 氏

白馬観光開発(株)

代表取締役社長 和田 寛 氏



白馬観光開発のツアー&最新施設で オールシーズン白馬を満喫しよう!

白馬岩岳スノーフィールド

1 早朝ファーストトラック キャットツアー

最高の雪質と絶景を
体験できる!
この冬イチ押しのツアー

早朝の誰もいないグレンデをキャット(雪上車)に乗って山頂へ、グルーミングされたファーストトラックが楽しめます。北アルプスのモルゲンロートを見ながらグレンデを滑ろう!

- 開催期間 スキー場営業期間中、毎日予約開催
(12/30~1/3を除く)
- 催行人数 キャット8名(定員)
- 開催時間 6:15~8:00
- 料金 3,000円(大人子ども同額)



樽池高原スキー場

2 HAKUBA TSUGAIKE WOW!

世界15カ国156カ所で展開されるフランス発のアドベンチャー施設が日本初上陸。海外でも人気の高い9種類のアクティビティで51種類の遊びを広大な自然の中で楽しむことができます。冬季は各種雪上アクティビティが楽しめる「SNOW WOW!」がオープン!

- 営業期間 春~秋(冬も一部営業)
- 営業時間 9:00~16:00
- 料金 1アクティビティ
1,000円~2,500円
(アクティビティにより異なる)

2018年8月 OPEN



白馬岩岳スノーフィールド

5 白馬岩岳 MTB PARK

大自然の景色を見ながら初級者や子どもでも心地よく走れる国際基準に沿った全長6,900mのフロートレイルコースを完備。「日本で一番いいコース」と多くの利用者から高い評価を得ています。ガイド付きツアーも用意されているので、気軽に体験してみませんか!

- 営業期間 春~秋
- 営業時間 8:30~16:00
- 料金 1日券 大人4,200円
子ども3,000円
(ゴンドラ乗車代含む)

2017年9月 リニューアルOPEN



白馬八方尾根スキー場

3 おむすび - OMUSUBI -

近年、外国人を中心に人気の高い、未圧雪・新雪エリアが白馬八方尾根スキー場の中腹に誕生。アバランチコントロール(雪崩制御)が行われているので、安心・安全に滑走できます。超上級者向けのダイナミックな斜面で極上のパウダーを楽しもう!

- 営業期間 1月中旬~3月中旬(予定)
※天候、積雪状況による
- 営業時間 8:00~17:00

2019年1月中旬 OPEN



4 HAPPO USAGIDAIRA CAFE

スターバックスの国内店舗以外で、同じエスプレッソドリンクを提供するオープンマーケットでは国内初の店舗。白馬村の街並みを見下ろす標高1,400mの大自然の中で味わうコーヒーは格別!

2018年2月 OPEN

- 営業期間 ゴンドラリフト「アダム」営業日
- 営業時間 9:00~16:00



6 HAKUBA MOUNTAIN HARBOR

標高1,289mの山頂に、白馬三山を正面に見据え、南北に広がる北アルプスの絶景が一望できる山頂テラスが誕生。名物の北アルプス「三段紅葉」をはじめ、その他のシーズンも四季折々の絶景をテラスでゆったりと寛ぎながら楽しめます。また、ニューヨーク発祥、国内でも人気の「THE CITY BAKERY」が出店。冬季はコーヒー・焼き立てパンを味わいながら白銀の絶景に感動!

- 営業期間 ゴンドラリフト「ノア」
営業日
- 営業時間 9:00~16:00
- 料金 入場無料
(HAKUBA MOUNTAIN HARBOR
までは岩岳ゴンドラ往復チケット購入
が必要)

2018年10月 OPEN



1のツアーの詳細は、白馬岩岳スノーフィールドのホームページ
(<https://iwatake-mountain-resort.com>)をご覧ください。

2~6の施設の詳細は、白馬観光開発のホームページ
(<http://www.nsd-hakuba.jp>)をご覧ください。